

群馬県立中央中等教育学校

(平成26年度指定SGH)



研究開発名：

「地球市民としての日本人」
の育成を土台とした
グローバルリーダー育成

カリキュラム開発 4本の柱

1. World Citizen 科 (学校設定科目)
2. 総合的な学習の時間
「地球市民育成プロジェクト」
3. SG学校行事
4. 明石プロジェクト

World Citizen科 (グループ研究)

1～2年 多文化比較を題材に、課題研究の基礎

ツールを学ぶ

1年 Multi Cultures I (35時間)

ICT活用基礎

2年 Multi Cultures II (35時間)

地理統計資料

World Citizen科 (グループ研究)

3～6年 8つの分野から選択して学ぶ

グローバルビジネス、国際経済、国際事情、
国連活動、環境問題、ESD、比較文化、
世界の宗教

3年 Global Studies I (35時間)

4年 Global Studies II (1単位)

5年 Global Studies III (1単位)

6年 Contemporary Studies (1単位)

総合的な学習の時間 「地球市民育成プロジェクト」(個人研究)

題材の広がり

1年尾瀬→2年群馬→3年日本→4年世界
→5年世界へ発信

1年	ESD尾瀬学習	70時間	4年	世界探究	1単位
2年	群馬探究	70時間	5年	世界へ発信	1単位
3年	日本探究	70時間			

World Citizen科・総合的な学習の時間ともに・・・

課題研究 …… ゼミ形式



論文



発表

…… 中間・最終

SG学校行事

既存の学校行事のSGH化

日本の伝統文化体験、国内・海外修学旅行、
企業・研究機関訪問、オープンスクールなど

+

新設のSGH学校行事

グローバルウィーク(9月)、各種成果発表会

明石プロジェクト

希望者による課外研究活動

模擬国連、イノベーション、英語ディベート、
He for She、ハワイ研修、ESD環境、英字新聞

小グループで活動(H30年度88名)

コンテスト等に挑戦

教員の担当

World Citizen科・・・

1年	Multi Cultures I	技術科
2年	Multi Cultures II	社会科
3年	Global Studies I	学年全教員
4年	Global Studies II	学年全教員
5年	Global Studies III	情報科
6年	Contemporary Studies	英語科

総合的な学習の時間・・・各学年全教員

SG学校行事・・・関連する全教員

明石プロジェクト・・・SGH推進・研究部職員

<課題研究の指導の工夫>

1. ゼミ形式でディスカッションを繰り返す
4つの評価視点：共感・批判・指摘・提案
2. 発表会での学び合い
同級生 \leftrightarrow 同級生 上級生 \leftrightarrow 下級生
生徒 \leftrightarrow 高校・大学教員・大学生・大学院生
3. 同一評価基準（ルーブリック）を用いた相互評価、外部指導者評価とフィードバック

<課題研究の指導の工夫>

4. 発表形式の一部修正

模擬国連、TED型プレゼンの導入

TED型プレゼン＝世界に広める価値のある
アイディアについて、聴衆を説得することを
目的に、プレゼンテーションソフトを効果的に
使用しつつ英語で行う個人発表。

＜中央中等の課題研究発表の目指すもの＞

『高校生らしい独創性に満ちた内容を、効果的に世界に向けて発信できる発表』



6学年Contemporary Studiesにおける個人研究発表「TED型プレゼンテーション」においてその形を追究する。

＜中央中等の課題研究発表の目指すもの＞

『高校生らしい独創性』

➡ 中央中等SGHに関わる全ての人による
「**学び合い**」から生まれる、

- ①さまざまに異なる視点
- ②互いの刺激、モチベーション
- ③コミュニケーション
- ④個の興味の深まり

＜中央中等の課題研究発表の目指すもの＞

『高校生らしい独創性』の成果モデル

NRI学生小論文コンテスト2016 高校生の部 優秀賞

「拡張型心筋症治療の未来～心臓移植以外の手段で命を救う～」(H28年度5年女子)

『長らく批判されている日本人の渡航移植の現状を冷静に分析し、心臓治療について研究。人工心臓の小型化ポンプを動脈・静脈の複数個所につけるといふ、高校生とは思えないような着想で目からうろこの治療法のアイデアを提示している。人工心臓の技術的な問題解決に果敢に取り組む姿勢は、エネルギーで挑戦的である。実現性は不明確であるが、将来に向けてこの姿勢を貫き、ぜひとも新しい革新につなげてほしいという審査委員の期待感を集めた。』(野村総合研究所HPより)

＜中央中等の課題研究発表の目指すもの＞

『高校生らしい独創性』の成果モデル

群馬イノベーションアワード2017 大賞（高校生初）

（H29年度5年男子）

「食物アレルギー患者の飲食店探しを手助けするアプリの開発」

『食物アレルギー患者が、安心して食事ができる飲食店を簡単に探せるアプリの事業プランを発表した。サービスの名称は「FREAT（フリート）」。アレルギーを持つ登録ユーザーをグループ化し、飲食店の情報を共有する。自分と同じアレルギーを持つ人が行った店の情報を簡単に検索できる。』（GIA2017受賞者紹介より）

＜教科のSGH化の取組み・事業の全体評価＞

中央中等版「グローバル人材育成評価ルーブリック」

- 4つの領域、12の力、36の力の構成要素
- 本校の教育目標の全体像を具体的に表現

「グローバル人材育成評価ルーブリック」の活用

①生徒自己評価

②授業目標・活動との関連づけ

- ・授業を通じたグローバル人材育成
- ・授業公開、情報・意見交換会の実施



- ・全生徒・全教員による目標の共有化

③SGH事業の全体評価



ご静聴ありがとうございました